

事業コード	R1-建-継-04		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	二次改築(現道拡幅)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2492
路線名等	(主) 横手大森大内線		担当課長名	道路課長 佐藤 秀治
箇所名	横手市三本柳		担当者名	副主幹(兼) 班長 渡部 寿
総合計画との関連	政策コード	03	政策名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業期間	H27~R6(10年)	総事業費	19.0 億円	国庫補助率	55.00	
事業規模	○延長L=2,240m、幅員W=6.5(12.0)m (2.5+1.5+3.25+3.235+1.5)m					
事業の立案に至る背景	○主要地方道横手大森大内線は、横手市横手町と由利本荘市新田を結ぶ県道である。旧横手市、旧大雄村、旧大森町、旧大内町を經由し、国道13号と国道105号を結ぶ主要な幹線道路であり、産業振興や救急医療、地域防災などの機能を担う非常に重要な道路である。 当該区間の車道幅員は狭く、沿線には物流基地が点在し車両交通量が多く混雑が多発する。一方で横手地区統合小中学校や平鹿総合病院などの公共施設が周辺に存在し事故も多発している。 第2次緊急輸送道路に指定されている本路線の機能を保持するためにも、早期に整備を実施する必要がある。					
事業目的	○第2次緊急輸送道路としての機能を確保する ○現道拡幅整備による安全で円滑な交通の確保 ・幅員の確保による車両等通行の安全性向上					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事 業 費		1,344,000	1,896,900	552,900	
	内 訳	工 事 費	475,000	532,600	57,600	労務、資材単価の増
		用 補 費	812,000	1,186,900	374,900	商業施設の不動産鑑定評価額の増
		そ の 他	57,000	177,400	120,400	補償対象物件確定による建物調査費用の増
	財 源 内 訳	国庫補助	940,800	1,043,295	102,495	
		県 債	362,800	768,200	405,400	
そ の 他						
事 業 内 容		調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工		国庫補助率の変更による	
事業の進捗状況	○平成30年度末で事業進捗率18%(用地進捗率は29%)。					
事業推進上の課題	○特になし					
関連する計画等	○横手地区ほ場整備(H27~R4予定) ○第2次横手市総合計画					
情勢の変化及び長期継続の理由	○横手北スマートIC(R1年8月供用)					
事業効果把握の手法及び効果	指 標 名	県管理道路改良率				
	指 標 式	整備率(整備済み延長/路線実延長)				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	78.9 %		データ等の出典	道路課調べ	
	実 績 値 b	79.0 %		把握の時期	平成31年 4月	
達成率 b/a	100.1 %					

前回評価結果等	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	① 指摘事項
	特になし
	② 指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	○当該区間は幅員狭小 (車道幅員 5.5 m) 及び線形不良 (最小曲線半径 20 m) で、事故が多発している。また、冬期堆雪帯がなく、1年を通じた交通の安全確保が望まれる。 ○死亡事故を含む死傷事故が発生している。	15点
緊 急 性	○国道13号と横手北スマートICを結ぶ区間において、道路構造規格を満足していないのは当該区間のみとなっている。	15点
有 効 性	○第2次緊急輸送道路に指定されており、整備による機能強化が期待される。 ○三次救急医療施設等である平鹿総合病院へのアクセス性が改善され、救命救急体制の強化が期待される。	30点
効 率 性	○事業の費用便益比は2.06であり、効率性は高い。 ・総便益の現在価値 37.4億円 ・総費用の現在価値 18.2億円 ○ほ場整備事業との調整により、田面排水と路面排水を兼用しコスト削減を図っている (施設は農林で設置、管理)	18点
熟 度	○平成30年度末の事業進捗率は18%である。	10点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 必要性、緊急性、有効性が高く、事業は引き続き実施すべきである。	88点
総 合 評 価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

事業コード (R元-建-継-04)
箇所名 (横手市三本柳)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	道路の現状の問題						
	道路構造上の欠陥箇所数 ・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>4% ・冬期堆雪中なし		3箇所以上		-	2次改築事業については該当しない。	
			2箇所				
			1箇所				
			該当箇所なし				
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度 ≥ 1.0 又は走行速度 ≤ 30 km/h ・現道の事故率 ≥ 50 件又は重大交通事故が発生 ・通学路指定で歩道なし又はバス路線で歩道なし		3項目該当	15	15	・現道の混雑度 ≥ 1.0 ・現道の旅行速度 ≤ 30 km/h ・現道の事故率 ≥ 50 件 ・重大交通事故が発生 4項目	
			2項目該当	10			
			1項目該当	6			
			該当項目なし	0			
	計				15	15	
緊急性	道路をとりまく環境等						
	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業		あり	5	5	横手地区ほ場整備	
			なし	0			
	緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、迂回路の確保 冬期通行不能区間等		あり	5	5	主要渋滞箇所 (上真山交差点)	
			なし	0			
	同一路線の整備状況		整備済み	5	5		
			未整備	0			
	計				15	15	
	有効性	道路の位置づけ					
地域コミュニティの確保 (公共交通、公共施設・交流施設など) 救急医療施設へのアクセス			該当する	7	7	羽後交通バス路線	
			該当しない	0			
地域防災計画上で重要な道路			アクセス性向上に大きく貢献	8	8	平鹿総合病院	
			アクセス性向上に貢献	6			
社会変化による事業の必要性			アクセス性向上への貢献が小さい	4	7	第2次緊急輸送道路	
			該当する	7			
			該当しない	0	8	横手北SIC供用 (R1.8)	
			必要性が高い	8			
			必要性に変化はない	6			
		必要性が低い	4				
計				30	30		
効率性	事業の進捗状況						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	2.06	
			1.0未満	0			
	計画交通量		5,000台/日以上	5	5	8,500~13,800台/日	
			1,000台/日以上~5,000台/日未満	3			
	コスト縮減		1,000台/日未満	0	5	ほ場整備区間で兼用排水路を設置	
			あり	5			
	事業中止による影響		なし	0	3	現道拡幅	
			既投資額の損失大	5			
			既投資額の部分的損失	4			
計				20	18		
熟度	事業の進捗状況						
	事業の進捗 (事業費)		8割以上完了	10	5	18%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
	用地買収の進捗 (面積)		8割以上完了	10	5	29%	
			5割以上完了	8			
			1割以上完了	5			
			1割未満	2			
	計				20	10	
合計				100	88		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		